

stage



◀ 第二回公演
『眠ル王様』より

『熱』のない舞台は、みたくない。

うなされるような『熱』を持った芝居。凍り付くような『熱』を保持した芝居。適温で心地好い『熱』の芝居。様々、様々。

ともすれば、面倒臭がる自分に渴をいれる。どうも最近、ぬるま湯につきり過ぎたようだ。経験値を積み、自然にレベルは上がっていく。だが、何のための経験値なのか？

舞台をみる時、観客は何をみるのだろう。席に着き、暗い中、光の当たるほうをみる。そこに、舞台があり、役者が立っている。その口から発せられる言葉。その体の動き。変わる照明。音。観客は、じっと見つめている。

光の当たる舞台にいる役者は、何が出来ののだろう。また、舞台を作り上げようとしている人達は何が出来ののだろう。

目的のための、手段。手段のための、目的。人が集まり、去って行く。そして、また別の人が集まる。舞台(芝居)は、それ自体、生き物である。

だから、面白い。だから、厄介だ。

わが劇団も、今年で三年目になる。第五回目の公演、たぶんこの記事が掲載される号が出る

頃には、役者もスタッフも、オーバーヒート寸前だろう(焼き切れている可

能性も大である)。

旗上げしてから、様々な批評を受けてきた。脚本、演出、装置、音響、照明、役者。どれだけのことを、解決してきただろう。

変わらないモノは、変わらない。変わりたくなくても、変わるモノは変わる。

そんな中で、常に新作の上演をかさねてきた。が、しかし、今回は少し違う。

なぜ、こんな断りが入るのかといえど今回は、新作とはいえず書きがあるのだ。下書きといつても、一度、上演した作品なのだが…。

その作品は、第二回目の公演にあたる『眠ル王様』である。旗上げて初のオリジナルの脚本。

『わからないんだ』という台詞で始まるその舞台は、まさしく混沌としていた。わからないということ、隠さずに言い切りたくて書き上げ、作り上げたようなものだったから。

登場人物全員が、『果て』を指して、『果て』を求めて、さよう。その『果て』は、希望であり絶望であった。終わりであり始まりであった。

はたして、行き着けたののだろうか？

けれど、白一色で造られた舞台の上には、確かに目には見えない『熱』があった。

こうして書く、誤解を受けるかもしれないが、別に懐かしみたわけではない。感傷的になるな

んて、ばかばかしい。

次の作品『ハンブティダンブティの行進』は、『眠ル王様』を下書きにしながら、全く別の物語である。

タイトルの『ハンブティダンブティ』とは、鏡の国のアリスの登場人物である。『ズングリムックリ』という名の気難しい卵は、堀の上に座っている。

なぜなのか？その姿を思い浮かべているうちに、堀の上に座っているのは、私のほうだった。

「泡沫の大きな泡には、何が包まれているのか」

どうも最近、何もかもがぼやけているような気がする。

まるで、薄い膜で包まれているように。それは、自分で作ったモノなのか。それとも、違うのか。生まれる前、つまり、胎児の頃に見る夢。そして、生まれ落ちて見る夢。容赦なく、突き付けられる現実。

夢と現。

危ういバランスを取りながら、日々過ごしている。劇的なこと、刺激的なこと、衝撃的なこと。

周りにたくさん有るようで、実

は、あまり無いような気がする。

あり過ぎてわからないのか、慣れてしまったから、わからないのか？

誰だって、赤ん坊だった。赤ん坊を腕に抱いた時の、込み上げてくる感情。嬉しき、怖き。そして、その赤ん坊の熱さ。

今、舞台に乗せたい『熱』は、そんな熱さだ。

刑事モノ、四畳半モノ、いろいろな作品を作ってきた。けれど、今回の作品は久方振りの『夢』モノである。

あなたの脳に。あなたの魂に。直接焼き付くような、熱く、痛い、舞台を。

我楽多屋の舞台。変わることに、変わらないこと。あなたに絶対、観て欲しい。行進は、すでに始まっているのだから…。

行進のための序章

イージーシアター我楽多屋

△代表・長尾広海▽

GARAKU TAYA

第5回公演
ハンブティダンブティの行進
作・演出/長尾広海
日時/7月12日(土) 19:00
7月13日(日) 14:00 18:00
場所/WALK八戸5Fパラボラ
料金/前売り・大人¥1500、高校生以下¥1000※当日は¥300増し
開演(18時~24時) 館:030(980)9309 宮崎:020(884)8771

7月のFriday Amusement Negative Shop 全て 19:30~ ¥500

<p>■4日(金) 高坂ユキオアコースティックライブ 青森市在住の高坂氏によるライブ。</p>	<p>■11日(金) ひまノVOL.12 構成・出演/田中勉 田中勉の一人芝居。</p>
<p>■18日(金) 笑う果実 脚本/加藤健太郎 出演/田中勉 6月に続き、加藤脚本第2弾。</p>	<p>■25日(金) かもめ 原作/A・チューホフ 構成/平酸健悦 出演/木村修一 平酸健悦意欲作!新境地を開けるか?</p>

八戸市柏崎一丁目11-8 ☎&FAX 43-9876

●中里病院
→至三日町
Space BEN
NTT

劇団やませプロデュース作品 ナウマン象
劇団さっほろ公演

小林秀司 一人芝居 作/北野茨 演出/飯田信之

少し知恵遅れの空き瓶回収業のアヤヒコ。職員とのやりとりはどこまでもチグハグで、おかしさの中に人間の持つ本質的な素晴らしさが見えてくる…。プロの劇団「劇団さっほろ」の公演は必見!

■日時/7月2日(水) 19:00開演(開場は30分前)
■場所/劇団やませ稽古場 ■木戸銭/大人1000円・学生700円 ※当日は200円増し ■チケット販売場所/劇団やませ、スペースベン、八戸市民劇場事務局
【問い合わせ】事務局/八戸市鮫町下松苗場14-183 ☎33-3850 稽古場/八戸市青葉2-2-13 ☎44-8893